

はじめに

2001年（平成13年）1月、即ち21世紀の最初の年に海上交通局と海上技術安全局は統合し、海事局が誕生しました。昨今における時代の要請は、「個の責任と自由な活動を基本に、より高質で多様なもの」を求めるとともに、「地球的規模の広がりを持った資源・エネルギー問題、安全・環境問題等への適切な対応」を提起していることから、我が国海事産業もこれまで以上にこうした時代の要請や価値観の変化に適切かつ機敏な対応が必要となっています。今回の組織改編は、こうした状況を踏まえ、海運・船舶・船員分野全般にわたる横断的な施策を講じることにより国民のための効果的な海事行政を迅速に行うために実施されました。

これに併せて、海運分野を中心としたこれまでの「日本海運の現況」も、船舶・船員分野も含めて紹介する「海事レポート」として新たにスタートすることといたしました。第 部においては、第1章で海事分野への行政の取り組みの基本方針を記述し、第2章以下ではその基本方針に基づく個別の分野に関する政策を記述しています。第 部においては、海事産業の現状と動向についてデータ等をできるだけ豊富に掲載しつつ分析を行っております。

今回の海事レポートは、21世紀を迎え、総合的、機動的かつ迅速で、透明性のある海事行政の姿を切り取ったものです。本書を読んで、21世紀の海事行政のあり方について忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

海事局長